

消化器内視鏡の洗浄効果確認における ATP ふき取り検査の活用

～洗浄手順の習熟度確認ツール、スタッフ間のコミュニケーション・ツールとしても効果を発揮～



医療編

京都大学医学部附属病院（京都府）

樋口 浩和 氏

京都大学医学部附属病院では消化器内視鏡を洗浄した後、その清浄度確認に ATP ふき取り検査を活用している。同院医療器材部・内視鏡部の樋口浩和氏は、ATP 検査を導入したきっかけについて「洗浄の手順を決めて、そのとおりに洗浄したとしても、洗浄担当者には『本当にきれいになったのか?』という不安がつきまとうものである。そこで汚れの残存を数値化する方法はないか模索していた時に、ATP 検査の存在を知った」と振り返る。

樋口氏は ATP 検査を導入した効果について「洗浄担当者の『きちんと洗えただろうか?』という不安の解消につながった。また、ATP 検査の基準値をクリアすることで、担当者の洗浄の手技は確実に向上し、『正しい作業手順が身についている』という自信もついてきた」と語っている。さらには ATP 検査の結果を基に、スタッフ間で互いの洗浄技術について話し合うこともあり、ATP 検査がスタッフのコミュニケーション・ツールとしても機能しているという。